
 學 會

第23回中國四國眼科集談會講演抄録

(昭和11年11月22日 於倉敷中央病院)

 (中央眼科醫報第29巻第7及び8號より複抄、本抄録を再抄の場合も
 中央眼科醫報より複抄の旨明記され度し)

1. 二硫化炭素中毒によると考へらる

る慢性球外視神経炎の臨牀的觀察

 中山いさ(倉敷中)
 新谷文子(中央病院)

其の6例を觀察せるが、自覺的には兩眼中心視力の低下を來すも高度ならず、中心暗點は必發なるも比較的且陰性なり、他覺的には乳頭は多少充血し、黃斑部の濁濁、黃斑輪の不正又は缺損、中心窩反射の不正又は缺如等を見る、その他全身腱反射の亢進、血色素減少、エオジン嗜好性白血球の軽度の増加、淋巴球の増加、腦脊髄液壓の多少の亢進等あり、尙ほ本病は比較的再發し易き性あり。

本症の特長は腰椎穿刺によつて比較的速に良好の経過を取るに拘らず、球結膜下に高張性食鹽水注射を併用せざれば完全なる視力恢復、暗點消失を見ざる點なり。

井街 謙 本病経過中乳頭の所見軽度にて黃斑部の變性強きものあり、中心性網膜炎との識別困難のことあるも経過を觀察せば特異の球外視神経炎の諸症狀を現し來る、黃斑部検査には無赤光線を併用すべきなり。

赤木五郎 人絹工場に發生する球後視神経炎が果してCS₂中毒に因るや否やは從來屢々論議された所なり、演者は如何なる點を目標として之をCS₂中毒によるとされしや、尙ほ此際に於ける身體的及び精神的症狀は如何。

2. 急性球後視神経炎の1例

 佐々木 トラエ(岡山市
 民病院)

33歳の女の左眼の急性球後視神経炎の1例に就て述ぶ、視力は發病翌日1.5m指數にて2日目には光覺もなく9日目より少しづつ視力増進せり、原因に就て種々検査し特に副鼻腔には細心の注意を拂ひたるも所見なし、ワ氏反應(+)なりしを以て驅瘴療法を行ひたり。

3. 患側に網膜中心血管血壓の異常低

 下を見たる1側性腦横竇炎の1例
 に就て

 齋藤 靜子(倉敷中
 中央病院)

31歳の女 左偏頭痛を主訴とせる左側乳嘴突起内眞球腫、腦横竇靜脈炎及び硬腦膜外膿瘍を有する患者に就て數回に亘り網膜中心血管血壓を測定せる成績を述べたり、即ち横竇靜脈に炎症ある間は各血壓共に著しく低下せるも該炎症の輕快と共に正常に復し左右の差減少す。

4. グレノー氏角膜濁濁の組織的所見

鶴見 義夫(岡大)

54歳の女 14歳頃よりグレノー氏角膜濁濁を發し、7年前及び3年前の2回某病院の手術を受く、角膜移植術に際し「トレンソ」にて得たる全層組織を鏡檢す、變性はポーマン氏膜直下の角膜實質に

起り、實質表層に於ける硝子様變性なりき。

曲直部正夫 原發部位及び發生機轉に就ては興味ある問題なるが此點演者の考按如何。

鶴見義夫 今後の研究に俟つべきものと思ふが演者の鏡檢所見よりすれば先づボーマン氏膜直下の表層實質に何等かの機轉によつて變性を生ぜるものと思ふ。

畑 文平 硝子様變性は實質上層ボーマン氏膜直下の邊に一面にあり、手術的操作の加はりしもの故原發性の病變とは差異あらん。

5. 蠶蝕性角膜潰瘍症例

田 丸 朔 (岡大)

古來蠶蝕性角膜潰瘍には治療法なしと云はる。演者は其の密を深くせる2例を報告す。第1例は定型的の蠶蝕性潰瘍にて約半年後兩眼共に眼前手動の視力となり、第2例は「トラコーマパンヌス」の進行邊に潰瘍を生じ次第に掘鑿せられて下方に進み手動を辨ずるのみとなれる一異型なり。

6. 蜂螫性角膜炎の1例

船 石 平 八 郎 (京大)

24歳の男子 右眼角膜中央部に「スズメバチ」による螫傷を受けたり。約2週間後に診たる所見は著明なる周擁充血あり角膜は一面に表在性及び實質性に濁濁し中央に大潰瘍あり。角膜知覺は著しく鈍麻、前房は判然たらざるも蓄膿なき如く、瞳孔は極度に散大し、水晶體は明瞭ならざるも全體白く濁濁せる如し。視力は眼前手動、眼壓は50 mm.

山本尙武 脚長蜂を用ひ家兎角膜を刺さしむるに瞳孔は瞬間に極度に縮さず。豫め「アトロピン」點眼、「コカイン」點眼、「ウレタン」麻醉を行ひし家兎にても同様、又三叉神經を切斷せる場合も殆ど之に近し。

7. 生殖腺製劑の眼局所應用が靜脈内に注入せる「フルオレスツエン」の前房移行狀態に及ぼす影響に就て

丸 尾 孝 正 (倉敷中
央病院)

眼内壓に對する腦下垂體製劑の作用に關しては多數の研究あるも、之と密接の關係にある生殖腺の眼壓作用に關しては比較的少く且男女の性ホルモンが夫々同性及び異性に如何なる影響を與へるか、又は他の内分泌腺に對して性ホルモンは同一影響を及ぼすや否やは、全く未知に屬せり。この關係を研究せんと欲し第1報として「フロレスチンソーダ」の前房内移行が性ホルモン家兎眼結膜下注射によりて如何なる影響を受くるかを檢せしに 1) 男性ホルモンは男女兩性に對して「フロレスチン」液の前房内移行を促進せしむる作用あるも、2) 女性ホルモンは女性に對してのみ該促進作用を呈せり。

8. 岡山县第一岡山中學校第一學年

生徒眼檢診成績に就て

奥 田 觀 士 (日赤岡
黄 乾 泰 山病院)

第一岡山中學校一學年生徒 259 名に就て一般眼疾患、色神、調節力、眼位、屈折狀態、屈折異常者の眼鏡裝用狀態、眼精疲労ある者に於ては夫れを生ずべき原因に就き觀察す。此檢診は此同一學年に就き毎年1回5箇年間繼續の豫定なり。

松尾義雄 (1) 被檢者 259 名中「トラコーマ」患者 7 名を除き、残り、252 名中、結膜濾胞を有する者 233 名の多きに達せる點は我々の豫想外に多きに驚きたるなり。(2) 眼鏡裝用者 59 名中、眼科醫の處方によるもの 16 名に過ぎず、残り、43 名即ち大多數は眼鏡店の檢眼による。一中生徒は殆ど大多數知識階級の子弟なるにも拘らずかかる狀態なり。眼鏡は眼科醫の檢診によるべき事の注意を一般人士に知らしむる必要あり。

船石平八郎 京都市内虚弱小學兒童約85名に就て、主として結膜に重點を置きて検診せるに約97%に於て結膜濾胞の存在を認めたり。即ち演者の擧げたる統計値に近似せるを知る。但し余の場合、7歳より14歳に至る迄の兒童を含む。

＊脚：

9. 顔面紅色母斑に合併せる緑内障

小山 綾夫 (岡大)

3歳の男兒 顔面右半は紅色母斑、左半は色素斑にて覆れ殆ど全身的に兩者の交錯像を見る患者に兩眼共緑内障次で水腫眼を來せり。從來の説たる緑内障の多血性原因乃至シユレム氏管の異常は本例に於ては根據渺し。依りて演者はレートの如く植物神経系の異常に依るものとせり。

10. 全眼球炎の症狀を呈したる水晶體

前房内脱臼に依る緑内障の1例

小山 綾夫 (岡大)

55歳の男 左眼に10年來白内障ありしを放置せるに或朝突如眼痛、毛様充血、前房水白濁等を來し其の狀全眼球炎の如き患者に就き前房洗滌を行ひたるに其の際「ヒヨロステリン」結晶様のものを認めたり。患者の苦痛は即座に去り良好なる経過を取れり。これ即ち過熟白内障の囊自發的破裂に依る緑内障なり。

11. 慢性煙草酒精弱視の1例

東 貞雄 (岡大)

41歳の男 煙草は「バット」1日4箇以上、酒は洋酒を好まず主として日本酒1日1升乃至2升、時に煙草を肴として1升位の酒を飲む。約1年前より霧視、書盲症を訴へ來りし者、眼底所見として、乳頭顛顯側蒼白なり。視野には赤綠色に對して注視點よりマリオット盲點に互る横卵形の陰性比較的暗點を證明す。定型的の慢性煙草酒精弱視

にして、禁酒、沃剝内服、高張食鹽水結膜下注射を行ひ約2箇月にして全治せしめたり。

12. 稀有なる角膜火傷例

竹 村 慶 治 (新尾藩
任友病院)

患者は鑄物工で電氣爐から溶融せる鐵を鑄型に注入する際、誤つて兩眼角膜火傷を起せるもの、兩眼角膜全面が白色を呈す。治療約2週間で右眼は視力0.7に迄恢復したが、左眼は遂に角膜全層が脱落缺損して眼内容が漏出し、結局眼球癆に陥つた。我々の工場では良く角膜火傷例に遭遇するが未だ1例も失明したものは無い。即ち本例の如く失明せるものは極めて稀有の火傷例である。

箕越 中 余の勤務する造船部病院に於ては日、角膜火傷例を診するが、演者の如き重篤なるものに未だ接せず。孰れも「ハツリ」粉に依る小火傷にして同じく屢々發生する角膜異物患者よりも其の豫後は佳良にして、多くは痕跡を残さずして1、2日にて治癒す。

13. 眼窩蜂窩織炎に合併せる頭蓋内

合併症

日 淺 靜 逸 (岡大)

22歳の女 下眼瞼發診より轉移性左眼眼窩蜂窩織炎を起し、更に急性肋膜炎及び頭蓋内合併症を併發して3箇月の經過後死の轉歸をとる。腦膿瘍ならん。演者は本症例に於て超短波療法及び持續的腦脊髄液排出法を試みたる旨を述べ、更に眼性頭蓋内合併症に對し眼科醫は徒らに敬遠する事なく、よりよき認識と、より以上の熱意を持つ可きものなる事を述べ。

百々次夫 11歳の男子 約1週間前より惡感戰慄で發熱し、感冒として小兒科醫の診を受けたりしが、左眼球突出を認めて來院せる左眼窩蜂窩織炎、翌日腰椎穿刺して腦脊髄液壓の輕度上昇、多

核白血球增多あり、菌培養陰性、翌日他側眼に同様な症状を來し、而も第1眼症状は餘り變化せず。全身症状益々悪化し、其の翌々日死亡す、不幸「レ」線像を缺くも臨牀的症候より明かに海綿状竇の栓塞性靜脈炎の存在を思はしむ。

14. 再び「バルキンソニスムス」に就て

安井正俊(岡大)

「バルキンソニスムス」の2例に就て追加報告せり。前回の報告と合せ原著として發表の豫定なり。

高木 謙 演者の第2例の眼球上方牽引の例につき興味あるものとされたが、余も25歳の海兵にて發病原因不明にて漸次言語障害垂涎を發し、兩眼球が上方に痙攣性の牽上を來せるものにて、其の他「バルキンソニスムス」眼症状を認めたるものを経験せるを以て茲に追加す。

15. 所謂眼筋無力症に對する「プロスチグミン」(ロツシュ)の效果に就て

布村晴雄(京大)

17歳の男子 15歳の春に眼瞼下垂と複視を來たした。一時殆ど治癒せしが本年1月より再發し漸次増悪す、眼筋運動の疲勞性は著明、本例にProstigminを皮下注射し10分毎に眼運動状態の他、流涎、熱感、悪心、腸蠕動、血壓、脈搏、握力等を檢せり。Atropin 1cc注射後10分より效果顯著にして眼瞼下垂、球運動共に驚くべき改善を示すも、2時間にして元の状態となる。2cc注射後は眼運動は殆ど正常となりたるも效果は約3時間なり。3ccにては4時間持續せり。副作用としては1ccにては述ぶべき事無きも、2ccにては腹痛、眼窩緊張感、遲脈あり。3ccにては1% Atropin 0.3ccを伍用したるも強度の腹痛、遲脈あり、全身倦怠感強く坐居に堪えずして横臥せり。握力計にて測定したる値は不變なり。爾後隔日に2ccを

1% Atropin 0.3 ccと共に用ひ、常に著效を見たるも一時的なり即ち本成績はWalker, Laurent等の行ひたる筋無力症の症例に於けると同様なり。

井街 謙 49歳の男突然右眼上眼瞼下垂症に始り左眼眼球の左、右、下方運動障礙を來し、漸次、咀嚼筋、上肢、下肢に發作的に筋無力症を來せるものに「プロスチグミン」を用ひ一時的輕快を見たる例を追加す。

16. 邦人正視眼者調節線に就ての一實驗(調節時の焦點深度)

加來琢磨(廣島病院)

任意の方向に視標(毛)を貼布し得る2箇の枠を石原式近點計上にて前後におき、後方の枠を角膜前20cmに固定し、前方の枠を移動して前焦點深度を求めた。深度は3乃至6cmで之よりRohr氏の式によつて瞳孔の太さを求めて0.0064乃至0.00252cmなる値を得た。尙ほRohr氏は瞳孔の直径は0.00489cmなりと云ふも氏の得たる表中の數値による時は0.00504cm—0.00491cmなる結果を得る。視標の方向は、前後枠のものが大略直角に交はる様にして検査した。

17. 所謂狹義先天性停止性夜盲に就て

内山宗一(倉吉厚生病院)

従姉妹にあたる本症の2例を親しく檢診する機會を得、其の家系を調査し尙ほ2名の本症に該當する者あるを知れり、家系圖より本例に於ける遺傳型式は川上氏分類による本症の3種の遺傳型式の第2類即ち所謂劣性遺傳型なるを説明せり。

18. 翼状贅片に伴へる結膜囊腫に就て

片山雄(三原)

68歳 退役士官、10年來兩眼翼状贅片の發來を

認め、時々充血し、一弛一張す、内径より角膜縁に達する腫瘤あり 一部は延びて角膜内側隅を蓋ひ腫は底面に固着し移動せず弾力性硬度を有し波動を觸る。摘出を試みしも囊壁非薄にして直ちに破壊し帯黄色微濁の液を漏せしにより囊腫壁の一部を切除し内面を搔破焼灼術を終る。其の後経過佳良なり。茲に特筆すべきは結膜腫瘤は皮膚の夫れと趣きを異にし開放療法にて其の目的を達し得るにより困難なる全組織の摘出を要せざる事なり。

19. 鬱血乳頭の1例特に視神経内求心性淋巴道障碍に就て (標本供覽)

曲直部正夫(京大)

鬱血乳頭の成立機轉に關して、尙ほ定説なきも其の視神経内求心性淋巴道障碍に因る淋巴鬱積に基ける事もあるは周知の所なり。尙ほ斯る際鬱血乳頭に合併して網膜にも強き滲出機轉を招來する事あり。演者は臨牀的、病理解剖學的、病理組織學的知見よりして、頭蓋腔内腫瘍増殖に因る脳内壓上昇に原因し視神経内求心性淋巴液路に障碍を起せし鬱出乳頭を、更に網膜淋巴の排除困難より廣汎なる網膜滲出性機轉を惹起せる實驗例に接し得たれば、標本供覽茲に報告せり。

20. 一側脳半球萎縮を伴へる視神経萎縮の1症例

百々次夫(京大)

生後6箇月の男子「物を見ず」と主訴す。満期安産なりしが、生後4日目に短期持續性搐搦性全身痙攣を來す事約11時間に及び、以來20日間に亙り頻回反覆し、其の後は時折痙攣發作あり。生後3箇月時に上記主訴の下に外來を訪れしが、高度近視の外著變無きため放置せられ、更に3箇月を経て再診せり。兩眼乳頭は蒼白境界鮮明にして

網膜動脈狹少し單性萎縮の像あり。頭部は輕度長徑頭顱型、頭圍3.59 cm 左右非對稱性を呈す。膝蓋腱反射稍々亢進し、四肢に不隨意運動を認む。ワ氏反應陰性、腰椎穿刺するに初壓180 mm 水柱腦脊髄液に異常なく、空氣置換して頭部側面及び後頭前頭方向の「レ」線撮影により氣腦描寫法を施行す。即ち高度なる左側脳半球萎縮並に各腦室に亙る内腦水腫の所見を得たり。惟ふに生後4日に出現せる痙攣發作、飲乳不能等の臨牀的症候と左側脳半球萎縮よりして、明かに分娩外傷性内頭血腫乃至腦出血ありて之等全身症狀を惹起せしが、出血處の器質化によりて脳半球の萎縮を招來せるは疑を容れず。内腦水腫は該萎縮による腦脊髄液吸收障碍を成立機轉として之に續發せるものと理解す。而して本症例の單性視神経萎縮は第3腦室の著明擴大せる所見及び生後3箇月時に萎縮未だ證明せられず、再診時に至りて發見せられし経過よりして、分娩外傷性頭蓋内出血後續發せる内腦水腫の視神経交叉部壓迫に基因せるものと解す。

21. 卵白によるアレルギー性疾患

石田憲吾(岡大)

第1例 2年9月 女子 身體健全、生後1年位の時茶碗蒸を食べて、腹部より臀部へかけ「ほろせ」生じ下痢嘔吐を來す、其の後鶏卵を食す毎に間もなく眼瞼發赤腫脹張し、同時に全身に蕁麻疹を生じ、多くは一夜にして治癒す。生後半年の頃及び今回は約1週間に亙り眼瞼の發赤、輕度の皮疹及び痒痒感あり。

第2例 75日 女子 生後卵白で體を洗ひ約1月置いて再び洗顔せるに兩眼球結膜に高度の浮腫生じ、瞼裂外へ迄出る。充血はなく3日後消失す。

第3例 4月 女子 生後卵白で數回洗顔約2月振りに同様洗顔するに間もなく兩眼球結膜に高

度の浮腫生じ險裂外へ出るも充血はなし、數日洗眼して治癒す。

22. 學齡期膿漏眼患者の性別統計

北 島 勳 (高松)
田 中 守 義 (日赤)

昭和 2—11 年の 10 年間に本院に收容治癒せる濃漏眼患者 145 名を性及び年齢につき分つに成人において男子に多しと云ふ既知の事實の外に 7—15 歳即ち小學時代において男 3 對女 20 の大差あり。且其の大部分が淋菌性陰門炎を有すること (陽性 10, 陰性 2, 不檢 8) 及び男兒には 1 例の淋疾なきことを見たり。即ち上記男女罹患頻度の差は偶然にあらずと信ず。

23. 自案簡易眼電法器に就て

高 昌 正 夫 (岡大)

近時社會狀勢の變化と共に、醫療費低下は強壓的に行はるるに至る。醫業經營は合理化を促進される。其の一端として標記のものを作り 1 年間使用したが工合がよい。從來種々の眼電法器あるも一長一短あり。蒸氣電法器は防水布等厄介で手数を取り、女子は化粧髪が崩れるので嫌ふ、「ソラツクス燈」は夏期額や鼻が火照るので嫌はれ、又比較的高價である。手持式ものは患者が次々に替ると一々消毒しても嫌がるものがある。余の供覧するものは以上の點を幾分改良せり。構造は電氣炬燵の「ニクローム線」を適當に「ニツケル」鍍金せる金屬にて蔽ひ、眼を當てる部には石綿を用ひ「スタンド」を附して上下自由にせり。要するに卓上用「ソラツクス燈」を小型にして電球の替りに「ニクローム線」を用ひた様なもので價格 8 圓、電力 50「ワット」で經濟的である。

24. 松尾式簡易洗眼器供覧

松 尾 義 雄 (日赤岡山病院)

余の考案にかかる簡易洗眼器を供覧し、其の使

用法、用途等に就て演述せり。

25. 角膜移植例 (患者供覧)

畑 文 平 (岡大)

兩眼角膜表層の硝子様變性に依り殆ど失明状態にあつた患者の 1 眼に、網膜膠腫に依て眼球摘出の餘儀無かつた患者の角膜を直徑 3 mm の「トレパン」にて切除し、移植せるに術後克く癒合し 40 餘日の今日迄全く透明を保ち居る 1 例を経験せる故患者を供覧して一般の參考に供する。54 歳、女子、10 歳頃兩眼角膜の濁濁を氣付く。14 歳頃より視力障礙増し 7 年前及び 4 年前の 2 回に互つて某大學病院にて手術(搔爬)を受け一時視力増進せるも間もなく前よりも尙ほ増悪した。姉の 1 人にも同様の疾患がある。

現症 兩眼殆ど同様で輪部半 mm を残して角膜の殆ど大部分は灰白色の濁濁あり、上皮は稍々凹凸あるも普通、亦角膜實質層も深部は透明の如くで「グレンノー氏」結節状角膜濁濁である。視力兩眼共眼前指數辨、右眼中心部を 3 mm 直徑の「トレパン」にて全層切除し茲に次の患者より取りし角膜片を嵌入し壓迫繃帯を置き 3 日目に檢せるに少しの濁濁もなく癒合す。唯接合縁に近き内皮が僅に薄く濁濁せるのみ、中央部大部分は全く透明である。10 月 10 日手術し、10 月 22 日視力 15 m 指數辨となる虹彩及び瞳孔より覗ふ事を得、水晶體に未熟白内障を發見す、以後今日迄 40 餘日を経るも移植片の透明度殆ど變化無く視力は 2.5 m FZ (4 m FZ m + 0.5 D + Cyl 0.5 D ↑)。猶ほ角膜片を供給せる患者は 4 歳の男、昭和 10 年 2 月より網膜膠腫を發し「ラヂウム針」の腫瘍内適用に依り一時輕快せるも本年夏 8 月頃より再び増殖し全く摘出の止む無きに至れるものにて、前記患者と同日に再診に來り角膜片を供給せるは奇縁と云ふ可く失明眼も亦再生し得たりと云ひ得やう。

26. 白内障手術後の結核性虹彩毛様體炎

河原省平(岡山市
民病院)

45歳の一見甚だ健康なるかの如き患者に白内障手術を行ひ、手術並に術後の経過は全く圓滑なりしに、術後1箇月位して虹彩毛様體炎を惹起し多數の結核節を認め視力甚だしく害されたるも「ザルソプロカノン」「ウムスチン」等の注射並に眼局所治療により炎症消退し幸にして失明よりまぬがれたり、一見甚だ健康なるも内科的並に「レントゲン」等検査により右肺炎に舊陳なる結核竈を認めたる症例に就て述べたり。

畑文平 白内障手術後虹彩毛様體炎を起すは比較的多い事であり、之に定型的結核節を生ずるものあり或は前房蓄膿性虹彩毛様體炎を見或は結核アレルギー反應と見らるるものもあり、白内障手術の前にはビルケー等の検査をなす事後判断の上に效あらん。

井街謙 京大眼科にて水晶體蛋白に對する過敏反應と白内障手術後の刺戟状態との關係を検したる事ありて、兩者の平行性を見たり結核以外に水晶體蛋白過敏症が關係する事大ならずや。

27. 砲彈片による眼外傷1例

高木 諦(吳海軍)

某海軍三等兵曹 23歳 本年8月勤務中2m前方に砲彈炸裂し、砲彈彈片多數飛來し、顔面、頸部、胸部、左右上肢に小豆大乃至拇指頭大の彈片竄入せり。兩眼に於ては右外眥部、左顳骨上縁に各1箇小豆大の彈片侵入創あり。外傷當時は、兩眼に高度の視力障礙ありて、直に某病院に入院せり。10月7日即ち外傷後1箇月半經過後に於て、演者は診察せり。即ち兩眼に於ては眼球運動に障礙なく前眼部には何等異常無し。眼底の透視可良なり右眼底には黃斑部に1箇の孔形成を認め、夫れより外側前方には弧狀の脈絡膜破裂及び地圖狀

の萎縮乃至網膜出血及び色素の湧出あり。左眼底に於ては黃斑部及び其の外前方に不規則なる網脈絡膜破裂の像を認め、視野は右眼に於ては、中心部及び鼻側に著明の視野缺損あり、左眼に於ては中心部を含む鼻側上部4分1部の全缺損あり。視力右0.1左0.2なり。「レ」線検査を行ふに、右眼に於ては眼窩内にて外壁の深部に1箇、左眼に於ては眼窩内にて下壁の深部に1箇小豆大の彈片竄入し、眼球内には無し。即ち兩眼底の破壊現象は眼窩内に侵入せる彈片が眼球を直接打撲せる結果によるものなり、而も眼膜を穿孔せず斯の如く砲彈竄入により前眼部に大なる損傷を與へず、眼底に高度の破壊を來せる症例は甚だ稀有なり。

28. 某小學校に爆發的流行を來したる

急性結膜炎

筒井 徳光(岡大)

赤木 五郎(岡大)

山崎 義節(縣衛
生課)

縣下山間部某小學校に於て校醫が「トラコーマ」兒童101名を洗眼治療中に該兒童の過半は僅々數日中に劇しき急性「カタル性結膜炎」に犯され、其の多數は邊縁「フリクテン」をも合併し開險困難となれり。父兄は失明するものと憂慮し治療を中止し村民大會を開いて醫師を排斥せしが該醫師は間もなく老衰にて死亡せり。他に醫師無き地とて更に多數の兒童及び家族にも傳染せり。檢診するにコッホウイークス氏菌結膜炎の定型像を呈し、塗抹標本、培養試験共に該菌を證明せり。該醫は「トラ」治療に最初1—1.5%銀水を使用せるに刺戟強かりしたため「クペロン」に代へたるに數名の急性「カタル」發生したるにより、更に0.3%「チンク」水點眼のみとせるに爆發的に流行せるものにて、學校當局によれば校醫は手を消毒する事無く次々洗眼せりと云ふ。之等は本流行と深き關係あらん。

友保正雄 岡山市内或工場に於て本年7月初旬急性結膜炎爆發的に發生し女工450名の内107名に及ぶ。症候は眼瞼腫脹發赤し結膜充血腫脹し流涙、羞明あり恰も急性「トラコーマ」に於けるが如く多數の顆粒を簇生し重症に至りては薄き養膜を生じ又角膜表層炎を合併せるものあり。経過は輕きもの3週間重症は1箇月以上に及ぶ。8, 9, 10月に互りに流行し11月に入りて漸く減少す。初發以來全工の約60%に及ぶ。檢菌再三檢査せしが乾燥菌を檢出せり。

高島正夫 今秋流行せる結膜炎は特に硝酸銀にて疼痛を訴ふる者多し。村醫が硝酸銀を用ひていたが、疼痛の爲中止したとの事なるが、この場合2%「マーキユクローム」點眼、10%「プロタルゴール」點眼後洗眼するに疼痛なく成績良き如し。演者の治療法如何。

筒井徳光 コーウ氏菌結膜炎には硝酸銀水を用ふ。その他「メチレンブラウ」、「マーキユクローム」等の色素剤も有効にて之等も使用する。

29. 「スパーク」による中心性網膜炎

筒井徳光(岡大)

20歳の電氣工 眼前20cmの近距離にて猛烈な「ショートスパーク」の眩暈を受け、直後は眼がくらみて何物も見えず、其の後は霧視あり、左眼は數日にして治癒せるが右眼は3週間を経るも治せずとて來る。中心性網膜炎の所見を呈し、他に結核等の素因もなく約1週間の加療にて全治せり。本病の原因論種々あるが本例は光力學的作用によるものなり。

箕越中 20歳の電氣熔接工 約1月前保護眼鏡を使用せず操業せるに其の後兩眼共ウロウロして中心を凝視し得ず、中心暗點、中心窩の紅色着色等あり。光線が原因と思惟され兩眼侵されしも1眼は速に恢復し他眼も比較的速に治癒しつつあ

る點演者の例に類似す。

30. 日蝕性網膜炎に就て

橋本眞平(岡大)

昭和11年6月19日の日蝕觀望に原因せる網膜炎にて岡大眼科に來れる5例に就て主として其の視野及び黃斑部の變狀を述ぶ。

第1例 32歳の女 兩眼に來り小なる中心暗點あり、中心窩は幾分浮腫狀なり。

第2例 29歳の女 兩眼罹患、小なる中心暗點あり、初診時黃斑は殆ど異常なかりしに後に中心窩は赤色となれり。

第3例 23歳の女 左眼黃斑部に黒色色素あり。比較的 center 暗點あり。

第4例 16歳の男 左黃斑部紫黒色中心部に比較的大なる絶對暗點あり。

第5例 38歳 兩眼中心窩幾分黒色を呈し中心部に暗點あり。

31. 日蝕性網膜炎に就て

吉木良槌(尾道)

第1例 18歳の學生 觀望翌日初診、右眼黃斑部約2倍大浮腫、汚穢暗褐色中心は暗赤色、中心暗點あり。

第2例 29歳の女 右眼黃斑部輕度浮腫、比較的 center 暗點(+) 視力0.8

第3例 24歳の女 黃斑部輕度浮腫、暗褐色濁濁、中心暗點(+) 視力0.6

第4例 17歳の男 「ビール瓶」破片にて30分觀望翌日視力0.1、黃斑部約2倍大浮腫濁濁暗褐色、中心暗點(+)

32. 日蝕性網膜炎の10例に就て

岸本正雄(京大)

京大に於ける10例に就て見るに年齢は22—49歳、女4男6、兩眼6片眼1、正視8、遠視及び近

視各1例、いづれも實性中心暗點を訴へ初診時視力は0.2—1.5にて中7例は視力正常に復せるも尙ほ實性暗點ありて苦しむ。眼底黃斑部は發病10日以内に觀察せる8例中6例迄一様に中心窩に圓形乃至橢圓形の小白斑を認め其の周圍は黒褐色を呈せり、中心暗點は唯1例約4度の大きさを示せるも他は皆 $\frac{1}{2}$ 度以下なり。輪狀暗點は1例あり。

丸尾孝一 演者は無赤光線にて眼底を觀察せるや、余等の2例を之にて見るに黃斑部に正圓の斑面あり暗赤色の暈輪を伴ふ。

田村眞一郎、4例中の1例に就て追加す。夕方空を見ると日蝕同様の触れた太陽を見る。暗室中にて陽性遺像を見、日光を受けた隙硝子に面して閉鎖すると反對に太陽面黒く日蝕部分が白く陰性遺像を見る。

井街 謙 無赤光線による所見は初期は軽度にて3—4日に至り高度となり、中心部は黃色に周圍は暗黒色に見えるが漸次中心は灰色に黒色輪は消退す。此所見より先づ脈絡膜に浮腫を生じ網膜變狀は之に次で起るとの Birch-Hirschfeld, 秋山氏等の説に賛成す。

岸本正雄 小白斑及び暗赤斑共に普通光線よりは無赤光線の方が著しく不明瞭なり。其の他の眼底所見は無赤光線にても普通光線にても大なる相違なし。

33. 再び奇異なる眼底像を呈する所謂

中島氏症型に就て

箕越 中(岡大)

前回奇異なる網膜血管吻合を有する中島氏提唱の病型を報告せる際、一步を進め之を網膜葡萄膜血管の異常を主とし種々の變狀を附隨する一種の全身循環系統障碍の症候群とせるが、再び本症型の第2例を報告す。両親血族結婚の17歳の女、橈骨動脈極めて觸れ難く鎖骨上に獨樂音を聞く、視

力急に減退し虹彩萎縮し瞳孔散大反應を缺く、左眼の變化強し。

内山宗一 前回箕越君と共に報告せる症例の其の後の所見は左右共に光覺、兩眼高度の網膜剝離あり。左眼白內障を認む。

34. 無黃斑症の1例

森 勝三郎(大阪北野病院)

16歳の男 幼時より視力悪く遠視とされ眼鏡を裝用す。眼球角膜共に小、眼底に偽視神經炎の像あり。黃斑部動靜脈は稍々大きく通常黃斑のあるべき位置を通過し黃斑は全く認められず。父母は從兄妹結婚、遠視+11D。原因は發育異常ならん。

35. 所謂眼迷走神經反射傳導路に於ける

交感神經纖維問題再吟味

井街 謙(倉敷中央病院)

日眼總會席上交感神經が所謂眼迷走神經反射に必要な不可缺の徑路に非ざる旨を述べたるが、其の後の實驗により更に眼迷走神經反射が交感神經纖維と全く無關係に起り得るものなることを斷言せんとす。

36. 再び余の簡易なる白內障全摘出術

に就て

畑 文平(岡大)

昭和7年發表せるものに更に改良を加へたり。

(1) 瓣狀角膜切開、チン氏帶切斷鉤挿入による上部チン氏帶切斷。(2)「スパーテル」にて鞏膜創口縁を稍々壓迫して創口を開き、グザイール氏匙にて角膜下縁を軽く壓を加へて水晶體上端を僅に創間に覗かしむ。(3)「スパーテル」を捨て曲匙を創口より水晶體後面に沿ふて深く入れ、水晶體を抱へる様に引き出す。下方よりの壓は加へず水晶體は概ね全摘出せらる。(4)虹彩を整復し5%「ピロカルピン」點眼を行ひ虹彩脱出を豫防す。繼帶其の他の後處置は一般に同じ。